

祈りの泉

〔地図番号30〕

建立年月日

1964（昭和39）年11月

建立者

広島銀行

設計者



形状

平和記念資料館本館の南側の広場で、原爆ドームと原爆死没者慰霊碑（広島平和都市記念碑）とを見通すことのできる直線の上にある。東西27m、南北19mの長円形の池に多数の噴水を設ける。

建立の目的

「水を水を」と言いながら息絶えた原爆犠牲者の御霊に捧げ、慰める心を込めて建設された。

碑文

「祈りの泉」

特記事項

1 大噴水

1964（昭和39）年11月、広島銀行が建設し、広島市に寄贈しました。当時、西日本一の豪華な噴水と言われ、東西27m、南北19m、合計567本の噴水口が設けられ、毎分11トンの水を10mの高さまで噴き上げています。夜間はライトアップされます。2018年、広島銀行により改修が行われました。

2 大噴水ができる前

現在の大噴水がある場所には、最初は小さな噴水池がありました。噴水池は1958（昭和33）年4月、広島復興大博覧会をきっかけに、会場となった広島平和記念資料館（現在の本館）の南側正面に設置されました。

当初は博覧会のテーマ塔を建てる予定でしたが、たまたま協同組合連合会日本専門店会連盟から「原爆犠牲者の弔慰のための施設に使用してほしい」ということで広島市に100万円の寄付金が寄せられており、検討の結果、原爆犠牲者へ水供養する意味で、噴水池をつくることになりました。

噴水池は円形で、内径は11m、中央に1本、周囲に8本の噴水口があり、それぞれ約4mの高さに水を噴き上げるようになっていました。